「笹川杯作文コンクール 2009」～中国語で応募～ 第３回優秀賞作品

※原文に忠実に和訳しました。

「Ｋさんと私の教師への夢」

※個人情報保護の観点から、個人名についてはアルファベット表記とさせていただきました。

河南省　常愛涛

「良い教師になって、将来は良い学生をたくさん育てるんだぞ！」他人からするとありふれた励ましの言葉かもしれないが、私にとっては、ここ 10 年のうちで最も影響の強いものであり、認識や価値観さえ変わってしまう程のものなのである。

1999 年、当時、私は小学校５年生で、私の田舎は国家級の貧困地域だった。授業で使う教室や椅子などはいずれも親世代から使っていたものであり、ひどいものはもっと古いことさえあった。その古い教室や机、椅子には美しい記憶が詰まっているのだが、それらは最早風雨に耐え得るものではなかった。その頃の私達は、いつか広くて明るい教室で勉強できるのだろうか？ということばかりをいつも考えていた。今でもはっきり覚えているのは、日本の友人であるＫさんから援助をいただいてから、その夢が現実のものになったということである。

1999 年４月６日に起きた全てのことを昨日のことのように覚えている。私だけでなく郷里の人全員にとって、忘れ去ることのできない一日だったのである。その日以降、子供達は広く明るい教室で勉強できるようになり、危険な教室でびくびくしている必要がなくなったのだから。私達もこの教室棟の寄付者、日本の友人、Ｋさんに心から感謝した。

Ｋさんは和やかで親しみやすい老人で、まだらになった白髪が彼の年輪を映し出していた。もとは中国科学院の南京土壌研究所で働いていた人で、定年退職後にここ河南省封丘県の農業科学院を視察に訪れたのである。Ｋさんは教育熱心で、私の田舎の小学校にやって来て子供達が苦労しているのを目にして、かなり心を痛めていたようであった。それで彼は帰国後に自分の貯金から 200 万円（当時のレートで 15 万元）を私達の学校に寄付し、新しい教室棟を建設してくれたのだ。この建物は後に“Ｋ教育楼”と命名され、路甬祥教師に題字をいただいた。

竣工式の日は県の指導部もやってきて、普段は地味な小さな田舎が急に賑やかになったのである。誰もがこの心ある日本の老人を見たがっており、私は間違いなく幸運だった。児童代表として貴賓席で挨拶した上、Ｋさんと一緒に写真を撮り、記念として残すことができたのだから。

挨拶する時はどうしても緊張してしまい、原稿を持つ手がずっと震えていた。「緊張しなくても大丈夫、すばらしいよ！」Ｋさんの激励が聞こえた。私が原稿を読み終わると、Ｋさんはそばに来て「よくやったね！」と優しく声を掛けてくれた。そして、「将来は大学に進んで教師になり、将来はたくさんいい学生を育てるんだぞ！」と意味深長に言葉をかけてくれた。

「良い教師になって、将来は良い学生をたくさん育てる！」私は感動してＫさんの言葉を繰り返した。その時、私は涙をためてＫさんを見、彼は優しく頭を撫でてくれた。このひと時が永遠に私の脳裏に焼き付いている。

私は、Ｋさんの言葉をその時の記念写真の裏に書き記した。その写真を見る度、私は、彼の期待と励ましを思い起こすことができる。後に、それは自分を鼓舞する方法のひとつになっていった。

中学校の在学中に家庭の事情で中退した時も、Ｋさんの期待が最終的に学校へ戻る励みとなってくれたのである。

2006 年６月、二度目の大学受験（一度目は失敗した）、試験後に願書を書く時、私は何のためらいもなく省の師範学院の教育課程と記入した。その時、家族や教師は師範学院以外の良い専攻を受けるように勧めてくれた。私の成績は確実によりレベルの高い重点校に受かるものだったのである。それでも、私は自分の理想を思い、Ｋさんの私への励ましと期待に思いを馳せた。「良い教師になって、将来は良い学生をたくさん育てる！」その選択に悔いはない。

今年は、師範学院で学んで３年、さらに、理想を抱き育んで 10 年になる。４年次が終了したら、卒業して職場に就くが、人民教師としての責任と使命を履行しようと思っている。私は、かつての母校―深く感動し、夢を育んだ場所―へ行き、教育を支えていこうと心に決めた。“Ｋ教育楼”で教壇に立ち、子供達に私の逸話を聞かせよう。Ｋさんが私を勉励してくれたように、たくさんの子供が自分の理想を持ち、追求するように励まそう！